

タイトル	House N1 -裏とオモテと境界-
設計	1-1 Architects 一級建築士事務所
施工	平田建築（株）

タイプ	持家一戸建
構造	在来木造

講評	高さのある木造平屋建て住宅に梁を新設し、2層に分割している。外壁上部を窓にして小屋裏空間を町に対して開放し、1階の吹抜け部分に光を導いている。コンパクトにまとめられたプライベートな1階とは対照的に、上層は開放的な居場所として利用されている。
----	--



▲既存、L型平面により、写真左手部分に薄暗い空間ができている。



▲まちに開かれた上層とプライバシーの保たれた下層が対称的な外観。



▲既存、道にそびえる壁のような家。



▲これまで隠れていた天井空間が表出され、まちなみに奥行きをつくりだしている。古いものが有する価値を問いかける。



▲既存、畳や設備は老朽化している。 ▲既存を残しながらの補強工事



▲左から、玄関、リビング・ダイニング、キッチン、天井空間から光の入る明るい空間。



▲上に天井空間、下にLDK。



▲天井空間、梁の高さはFL+1.5mほどで、座ると視線が通り、立つと梁が視線を遮る。

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など

既存木造平屋建て住宅の老朽化に伴うリフォーム計画である。近年、この地域では古い家や自然が次々に取り壊され、施主もそれを哀しんでいた。

既存住宅は一般的な平屋に比べ高さのある建物であった。そのため、軸組だけを残して解体した後、柱間に新設梁を挿入することで水平面を構築し、上層と下層に居場所をつくった。暗い天井裏は、明るい天井オモテに生まれ変わった。

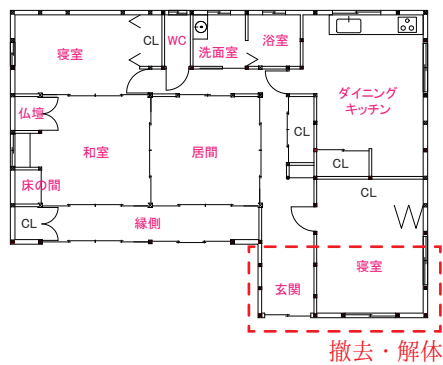
水平構面は既存柱の座屈長さを短くすると同時に、中間階の

地震力を外周部に伝達する耐震補強の機能をもつ。
施主は、コンパクトにまとまった1Fスペースと広い天井オモテの使い勝手の良さに満足しているようである。
本計画では、過去に裏だった天井空間をオモテに出すことで、内部だけでなく、町並みにもゆるやかな関係性の変化を与えている。風景が塗り替えられていく中で、長時間そこにあったもの（小屋組み）が有する精神を最大化するような住宅のあり方を目指した。

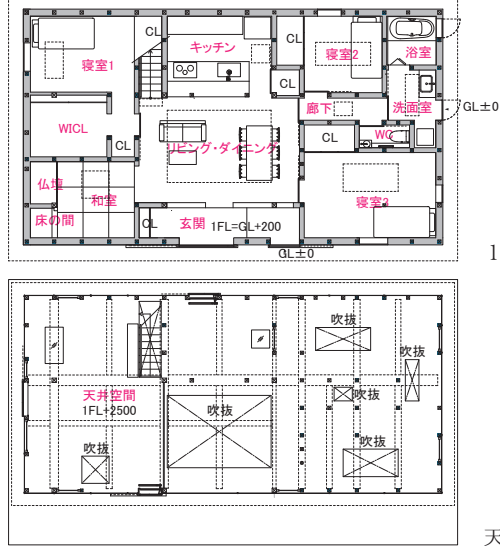
性能向上の特性	特に配慮した事項
耐震性能、耐久性、バリアフリー性能、温熱性能、防音遮音性能、防犯性能、室内空気環境	今まで隠れていた小屋組みを、住人やまちの人が常に関じられる表舞台に出し、家への愛着をさらに高めた。

データ					
所在地	愛知県知立市	新築竣工年	1971 年	築後年数	47 年
該当工事床面積	174.43 ㎡	総工事床面積	174.43 ㎡	該当部分工事費	3000 万円
居住者構成	65 歳以上：1 人	15～64 歳：2 人	15 歳未満：0 人	ペット	1

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位： ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ ■階段/ ■玄関/ ■イタテア/ □マシヨ共用部分/ □その他